

◆症例検討

テーマ 「DPPIV阻害薬へ変更直後に高血糖高浸透圧症候群を呈した症例」

講師 内分泌代謝科 主任医長 若杉 隆伸 先生

DPPIV阻害薬へ変更直後に 高血糖高浸透圧症候群を呈した症例

福井県立病院内分泌代謝科
若杉 隆伸

インクレチン効果

健康人 (n=8)
 ● 経口ブドウ糖 (50 g/400 ml)
 ● 静注ブドウ糖

ブドウ糖を経口あるいは静注で負荷し血糖値を同程度に上昇させた場合、経口で負荷した方が経静脈で負荷した方よりインスリン分泌がはるかに増大している。

↓

食物が腸管内を通過する時に、インスリン分泌を促進する物質の分泌を刺激する。これらの総称=インクレチン
 GIP、GLP-1

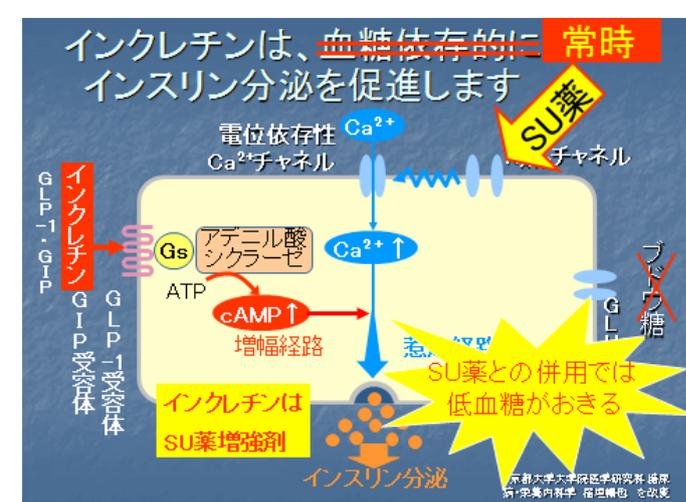
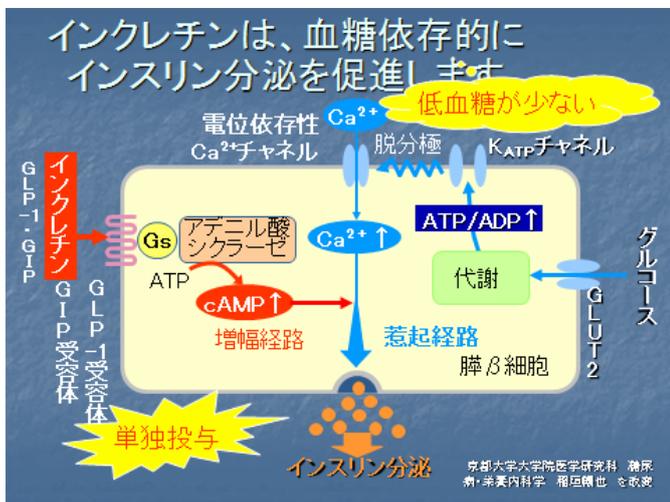
インクレチンとは？

- 炭水化物や脂質の経口摂取に引き続いて腸管から分泌されるホルモンの総称。
- 血糖上昇時にインスリン分泌を促進し、また、グルカゴン分泌を抑制*することにより血糖値を低下させる。*:グルカゴン分泌抑制はGLP-1のみ
- GLP-1(Glucagon like peptide-1)、GIP(Glucose-dependent insulinotropic polypeptide) の2種が同定されている。

金澤病院 誌 糖尿病 2007年7月号 第2巻 3号 170頁 さいえんす-インスターナラナル2007
 (原稿 Jpn J Diabetes Mellitus 14 th edition, edited by Kahn CR et al, 2005) 137頁

インクレチンの働きを利用する薬剤

- ▶ **DPP-4阻害薬**
 DPP-4を阻害することにより内因性の活性型インクレチンの分解を抑制する薬剤。
 代表的な薬剤: シタグリプチン(ジャスピア、グラクティブ)、ビルダグリプチン(エガ)、アログリプチン(ネシーナ)
- ▶ **GLP-1受容体作動薬**
 DPP-4による分解を受けにくいインクレチンGLP-1の誘導体またはGLP-1類似のペプチド。
 代表的な薬剤: リラグルチド(ビクテラ)、エクセナチド(バイエッタ)



症例1:82歳 女性

【主訴】口渇、全身倦怠感

【既往歴】**リウマチ性多発筋痛症、糖尿病**
腰椎椎間板ヘルニア、胆石術後、子宮筋腫
動脈瘤、内頸動脈狭窄症

【アレルギー】なし

【常用薬】（糖尿病治療薬については後述）
プレドニゾン(5)、アルダケトA(25)、ロイファン(100)、ルビトール(10)、アパフロ(50)、硫酸イソカルビドテープ(40)

【嗜好歴】喫煙なし、飲酒なし

【家族歴】父DM、伯母DM、弟DM、長男DM

【環境】独居 【職業歴】無職

症例2: 85歳の女性

- 家族歴、既往歴に特記事項はなかった。
- 現病歴: 糖尿病にて近医で **グリベンクラミド 7.5mg**などの内服治療を受けていた。転倒骨折し当院整形外科に入院した。
- 入院時現症: 身長**147cm**、体重**35.7kg**、**BMI 16.5**、体温**36.4°C**、脈拍**90bpm**・整、**血圧 94/58mmHg**、意識清明。

2例に共通する特徴 (2)

①糖尿病歴が長く、肥満を認めなかった。

②高血糖時にケトアシドはなかった。即ち、インスリン依存状態(生命維持にインスリンを必要とする状態)ではなかった。

③空腹時s-CPRは症例1は**0.73ng/ml**、症例2は**0.65ng/ml**と、低値ではあるが**0.5以上**は保持されていた。②に合致する所見だった。

④糖毒性が解除された後は少量のインスリンで血糖をコントロールできた。インスリン感受性が良いことと、或る程度の食後の分泌能が保持されていたことを示していた。

⑤**高血糖是正にインスリンを必要とする状態**だった。

SU薬の高用量内服をしながらDPPIV阻害薬を追加する症例は

SU薬の高用量でも血糖をコントロールできなかった症例。

高血糖是正にインスリンを必要とする状態

高血糖是正にインスリンを必要とする状態では
DPPIV阻害剤を使用する時

①添付文書に記載された許可最高用量の半量を超えるという大量のSU剤を併用すると、低血糖に陥る症例

②高血糖高浸透圧症候群を発症する症例がある。

低血糖も高血糖も、**DPPIV阻害剤を追加、あるいは、変更後の数日で発生する可能性がある。**

結論

DPPIV阻害剤を使用する時

低血糖、高血糖の症状を教育し、異常を感じた時には直ちに受診するよう指導するなど、注意深く使用する必要がある。

糖尿病治療のひとつのDPPIV阻害薬についての注意についての症例紹介でした。HPでの紹介にあたりスライドの一部を変更させていただいています。

〔文責：放射線科主任医長 吉川〕